

巻頭挨拶

同窓会は
現在から
未来へのもの

松楠会会長
橋本 正範

会員の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、平成23年度中に、母校香川大学で特筆すべき人事異動がありました。学長の一井眞比古先生がご退任され、長尾省吾先生が新学長としてご就任されました。教育学部関係では、教育学部長の有馬道久先生は、教育担当の理事に、新教育学部長に松楠会出身の山神眞一先生が就任されました。先生方による大学の一層の発展を大いに期待申し上げるところでございます。

また、別掲の通り、3月末に、元理事長安西一夫先生を含む8名の先生がご退職・ご転任になりました。在任中大変お世話いただいた先生方であり、名残惜しいものでございます。

本年度は200名余の新会員が入会いたしました。歓迎会で、たとえ進路が違って、身につけた識見と実行力で、自らの人生を切り拓くようにと話しました。そして、困難に直面した時には、大学の先生方や松楠会という受け皿があると話しました。

ところで、会員が、直接参加できる機会は支部活動であります。各支部では、特色ある事業を展開しておりますが、関係者のご努力にもかかわらず、若い世代の会員の参加が少ない傾向にあります。もともと、同じ学部を卒業したという一つの共通項のみで結ばれた、ゆるやかな団体であります。それはまた、生涯切れることのない縁しなのであります。人と人との出会いは、新しい発見を生みます。縁しのある人との出会いはそれを深めます。同窓会は、過去のものでなく、過去から現在に至り、未来を志向するものであります。若い世代のみなさんの支部事業への参加を大いに期待しております。

ところで、母校香川大学では、県内3カ所で香川大学サテライトオフィスを発足させております。松楠会員としては、この事業を支援するとともに、自ら参加して生涯学習の一環とすることも考えられます。

会員各位のご健勝を祈念いたします。

活気と 夢のある 教育学部の 創成に向けて



教育学部長
山神 眞一

紫陽花の色の変化に季節の変わり目を感じる頃となりましたが、松楠会の皆様におかれましては、如何お過ごしでしょうか。教育学部に対しまして、いつも変わらぬご厚情を頂き、誠にありがとうございます。

私は、昭和57年に母校に着任し、昨年10月より教育学部長を拝命致しました。また、同窓生の人事異動に関しては、学内理事をして頂いておりました安西一夫先生が定年退職なさいました。安西先生には、附属学校園・県との連携担当副学部長として、ご退職まで学部を支えて頂きました。そして、新年度に入り、卒業生である田中栄美子先生が特別支援教室「すばる」担当教員として採用され、学部発展のために尽力されておられます。

学部の近況としては、平成23年10月15日に本学部が当番校として、平成23年度日本教育大学協会研究集会在全日空ホテルクレメントを主会場に全国の教員養成系大学・学部から330名の参加を得て、全国規模の研究集会在成功裡に終えることができました。さらに、平成23年度より、県教委との連携事業として理数系教員（CST：コア・サイエンス・ティーチャー）養成拠点構築事業を開始し、教員養成という使命の中核的事業を着実に果たしてきております。また、松楠会の会員でもあり、本学の教員であられる坂井聡先生が平成23年度に引き続き平成24年度も特別支援携帯アプリの研究を富士通と共同して開発を継続されています。坂井先生の研究は、全国的にも注目されており、今後のさらなる活躍を期待したいと思います。

さて、香川大学は、長尾省吾新学長のもと、全学的な大学改革が進められ、教育学部も大きな変革が求められています。決して受け身ではなく、活気と夢のある教育学部を目指して、主体的により良い改革を断行していきたいと考えています。そのために、教育学部では、学部運営会議を中心として改革構想を検討し、議論を進めているところです。改革骨子としては、「発達支援」の視点を中核に据えた実践的指導力のある教員養成及び地域を支える教育的人材育成を目指して、①小学校教員養成の強化、②教職支援開発センター（仮称）の新設、③2つの課程の教育指導体制の連携強化、④大学院に小学校教育分野と日本語教育分野の新設、等を掲げて邁進しています。

学部長就任当初より、「活気と夢」のある教育学部を教職員と学生が一体となって築いていくことを所信として、取り組んでおります。松楠会の皆様には、これまでと変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

第3回 ホームカミングデー

～あの頃の私に会いに来ませんか～

香川大学では卒業生や教職員OBの方々に大学にお招きするホームカミングデーを本年度開催いたします。

香川大学の教育や研究・地域貢献の取り組み等のご紹介
恩師や教職員・学生との交流/懇親/特別講演/大学祭/大学施設の見学等々
多くの催しを企画しています。ぜひご参加ください。

2012.11.3 土

【11/3 土～4 日 大学祭】期間中の開催



特別講演



学生活動の紹介



キャンパスツアー



◆参加・イベント詳細のお問い合わせ先

〒760-8521 香川県高松市幸町1-1 香川大学経営管理室総務グループ
TEL:087-832-1012 FAX:087-832-1053

なお詳細は決まり次第HPにて掲載致します。

香川大学同窓会連合会HP：<http://www.kagawa-u.ac.jp/dosokai/>

教育学部を 離れて 九ヶ月



香川大学理事
(教育担当)
有馬 道久

今年はいまだ以上に節水と節電に努めなければならない夏になりそうですが、松楠会の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。教育学部長在任中は2年連続で多額のご寄付をいただくなど、学部の教育研究に一方ならぬご支援を賜り、まことにありがとうございました。現在、私は一時的に教育学部を離れ、教育担当の理事を務めさせていただいております。入試、教養教育、学生生活支援、キャリア支援など入学から卒業まで全学共通の教育を担当しております。これまでとは視点が少し異なったことで、あらためて教育学部の伝統と教育のすばらしさを実感しているところです。

さて、松楠会に関わりのある事柄を二つ申し述べて近況報告に代えたいと思います。一つは、この5月に三豊市と東かがわ市にサテライトオフィスが開設されたことです。香川大学の教育・研究、学生活動等の成果や最新情報を定期的に発信したり、地域の方々との顔の見える交流の場として、あるいは地域の方々の生涯学習活動を支援する場として活用していただくためです。運営には各市の職員や関係者の方々のお力が不可欠ですが、実は設営や運営、来場者の感想や要望を仲介していただくなど、松楠会会員の方の多大なお力添えのおかげで円滑に動き始めたとは伺っております。今後ともよろしく願いいたしますとともに、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

もう一つは、今年はいまだ一度のホームカミングデーの年に当たり、11月3日(土)に開催することになったことです。当日は、大学祭や農学部の収穫祭とも重なりますので、皆様にいろいろ楽しんでいただけるよう、教職員と学生で知恵と力を出し合って準備を始めたところです。ぜひこちらにもおいでくださいますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、松楠会の皆様には今後とも教育学部はもちろんのこと香川大学全体にご理解とご支援を賜りますようお願いいたしますとともに、時節柄くれぐれもご自愛のほどお祈り申し上げます。

母校教員の異動

退職

平成24年 3月31日	教授(定年)	安西 一夫	H24.4.1付け名誉教授
	教授(定年)	薦田 義明	H24.4.1付け名誉教授
	教授(定年)	末廣喜代一	H24.4.1付け名誉教授
	教授(退職)	高井 忠昌	名誉教授辞退
	教授(定年)	西原 浩	H24.4.1付け名誉教授
	教授(定年)	渡邊 安男	H24.4.1付け名誉教授
	准教授(転出)	日野 陽子	京都教育大学へ
	准教授(転出)	山下 隆章	さぬき市立津田中学校長

昇任

平成23年 4月1日	教授	山下 直子
平成24年 4月1日	教授	高橋 尚志
	教授	古草 敦史
	教授	竹森 元彦
	教授	寺尾 徹

採用

平成23年 4月1日	講師	山内 玲	
平成23年 10月1日	講師	青木 高明	
	講師	岡田 涼	
平成24年 4月1日	准教授	佐竹 郁夫	大阪大学大学院理学研究科より
	准教授(転入)	池西 郁広	安原小学校より(香川県との人事交流)
	講師	篠原 渉	京都大学大学院理学研究科より
	講師	田中 栄美子	特別支援教室研究員より

就任

平成23年 10月1日	理事	有馬 道久	H23.9.30 学部長併任解除
----------------	----	-------	------------------

併任

平成23年 10月1日	学部長	山神 眞一	H23.9.30 副学部長併任解除
	副学部長	安西 一夫	H24.3.31 副学部長併任解除
	副学部長	竹中 龍範	
	副学部長(継続)	西原 浩	H24.3.31 副学部長併任解除
	副研究院長(継続)	七條 正典	
	副研究院長	竹中 龍範	
	副研究院長(継続)	西原 浩	H24.3.31 副研究院長併任解除
	教育研究評議員(継続)	加野 芳正	

平成24年 4月1日	副学部長	毛利 猛
	副学部長	岡田 知也
	副研究院長	毛利 猛
	附属高松中学校長	野崎 武司
	附属坂出中学校長	伊藤 裕康

併任解除

平成23年 9月30日	副学部長・副研究院長	高井 忠昌
平成24年 3月31日	附属高松中学校長	毛利 猛
	附属坂出中学校長	柳井 修

称号付与

平成24年 4月1日	附属教育実践総合センター 客員教授(継続)	好井 貞夫
	附属教育実践総合センター 客員教授(新規)	牧野 雅弘

訃報

熊野 勝祥 (元高松支部長) 平成23年12月15日逝去 高岡 義明 (前高松支部長) 平成24年1月31日逝去

謹んでご冥福を
お祈り申し上げます。

退

職

教

員

より



定年退職 をして

安西 一夫



定年退職をして、2か月ほどになります。今は、大変美味しい沢山の料理を目の前にしてどれを頂こうかと思案をしているようなところです。一つは、畑仕事に既に取り組んでいます。もう一つは、数学的な見方・考え方の普及です。

数学的な考え方には「内容に関係した考え」と「方法に関係した考え方」の2つがあるといわれています。「内容に関係した考え」は、例えば、2次方程式の問題を解く場合に必要な考えがあり、その考えは他の問題解決にはそれほど役に立たない問題固有の考えです。「方法に関係した考え方」は、内容に関わる考えと切り離して考えることができ、小学生でも大学生でも社会人でも同じ考え方で種々の問題解決ができ、人間の生きる力に結びつくと考えられます。その例として、帰納的な考え方、演繹的な考え方そして類推的な考え方等があります。2年間ほど松楠会の支援を得て幾つかの小・中学校で出前授業をすることが出来ました。これからもボランティアとして取り組む予定です。写真は、昨年度の三豊市立本山小学校での風景です。三豊市立詫間中学校、本山小学校の先生方のご支援を得て有意義な授業ができました。

以上の他に、心を豊かにしてくれるものを一つ、楽しく健康に良いもの1つに挑戦しようと思っています。

最後になりましたが、母校と松楠会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝ご多幸をお祈りいたしております。

長い間お世話になりましたことに心より感謝申し上げます。



散歩と 歌の練習

薦田 義明



退職して2ヶ月が過ぎた。初めの1ヶ月は楽譜にレコード、そしてCDにビデオテープ等の他、長年積み置きしていた書籍に書類、そして写真の分類と整理に追われた。

その後、5月からの日課としているのは散歩と歌の練習である。散歩は自宅を起点として東西南北に4つ程のコースがあり、この1週間に限って言えば昼食後の北方面80分コースと夕食後の南方面40分コースが多い。4月から1日置きに30分程歩くことから再開した散歩が今や1日に2回、計2時間近くにもなった。もともと糖尿病（軽度）のため、散歩は運動療法として重要なのだが、もう一つ別の大きな理由がある。それは歌うことにも大変プラスになることだからである。オペラにしりサイタルにしり、またそれらの準備となる普段の練習にしても2時間から3時間、あるいは歌い続けではないけれど1日に5～6時間の練習が1週間毎日続くことさえある。歌手には健康と体力が必要なのである。そして、その歌の練習がもう一つの日課となっている。歌における私の集中力は30分か40分なので、これを標準セットとして1日に3セット程を行っている。予定のある演奏会での曲目の他、これまでにリサイタル等で取り上げてきた「冬の旅」、「白鳥の歌」、「詩人の恋」等の他、ヴェルディのオペラアリアから日本歌曲まで実に様々な分野に及ぶ。

昔より息が長く続き、昔は出しにくかった高い音、低い音が出せるようになるなど、練習を重ねる毎に発見があり、発声技術の向上に比例して芸術表現も昔の自分より深化している自覚を持つ瞬間のなんとうれしいことか!!……などと、歌を前にすると年齢を忘れて20代の心と気持ちに若返る。大学と学生達とも離れてちょっぴり寂しいが、せめてあと5～6年は現役バリバリの声楽家として頑張りたいと思っている。



近況の ご報告

末広喜代一



さる2012年3月31日をもって香川大学教育学部を定年退職しました。思えば、26歳の時に香川大学教育学部に奉職してから39年にもなりました。研究者としては半人前、教育者としての心構えもできていない状態で大学の教員となり、試行錯誤の39年間でしたが、皆様のお力添えもあって私なりの39年間を過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。

退職後は自宅でマイペースの生活をしていることもあって、退職後2ヶ月ほどしかたっていないにもかかわらず、大学の授業や会議、さまざまな雑用に追われた日々がはるか遠い昔のように思えます。

退職に当たって、大学の研究室にあった多くの書物と資料を自宅に持ち帰り、その整理に多大の時間を割くことになったのは、退職された多くの先生方と同じです。私の場合はさらに仕事柄、教育学部の圃場（元若草寮の裏にあります）に多くの研究用の植物を育て

ていました。用済みになった植物の多くは廃棄処分しましたが、まだデータを取りたいような植物の一部は自宅に持ち帰り、自宅の庭で育てることにしました。そのため、既に自宅にあった植物の植木鉢をあちらこちらに動かして、持ち帰った植物の植木鉢を置くためのスペースを確保しました。それでも自宅の狭い庭ではすべての植物を置くことは出来ず半分くらいは元の圃場に置いたままになりました。そのため、自宅に持ち帰った植物だけでなく、自宅に持ち帰れなかった植物の面倒も見なければならず、2日に一度ほどのペースで教育学部の圃場に通って、水やりや草刈りを行っています。

なんのことはない。大学の授業や会議がないだけで、これまでと大差はない(?)植物に縛られる生活を送っています。添付の写真は5月の連休に娘の結婚式のためにハワイに行ったときの写真です。

お世話になりました

西原 浩



本年3月末日に41年間勤めた教育学部を定年退職しました。昭和46年4月から奉職しましたが、無事定年を迎えることができ、ほっとしております。在職中は本当にいろいろとお世話になり、ありがとうございました。この4月よりは、週2回、非常勤講師として香川大学に参っております。

私が教育学部に赴任したおりは学生定員が210名でしたが、数年のうちに初等教員養成課程40名の定員増が2回あり、290名まで増加しました。当時は教員需要の点から見ても学生の皆さんにとって余裕があったのではないかと思います。最近は少し好転していますが、数年前までは地方の教員需要が極端に少なくなり、それが現在の学生の教員志望状況に一定の影響を与えているのではないかと危惧しています。努力すれば報われる、そういった時代が早く来ることを願っています。

今一番の悩みは大学の研究室から持ち帰った荷物の整理です。20数箱の段ボールの山が狭い我が家を占領し、早く片付けなければと気ばかり焦りますが、手づかずの状態が続いています。

大学を退職して、時間的な余裕が多少できましたので、合気道には一層精進しております。週1回は香川大学合気道部の指導で大学に来ておりますし、また週2回県立武道館で稽古指導を行っています。去る5月26日(土)は日本武道館で、全日本合気道演武大会があり、高松合気会として30名の会員とともに団体演武に出場しました。僅か1分30秒の演武ですが、その成功を願って取り組んだ皆の努力は半端ではありません。



一つの目標に向かって力を合わせて努力し、その成果が得られた時に味わう達成感は何ともいえないものがあります。また本年は、長年関わってきました高松合気会が創立35周年を迎え、11月18日(日)に香川県立武道館で記念演武大会を開催することになりました。子ども、学生、社会人、高齢者等がそれぞれの体力にあわせて演武を披露します。是非多くの皆様にお越しいただければ幸いです。

教育学部と松楠会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

生涯学習を「受講」する立場に

渡邊 安男



今年の3月に定年退職を迎えたと思えば、早いものでもう梅雨入りの季節となり、我が家の庭の紫陽花も見事な花を咲かせています。

会員の皆様方、いかがお過ごしでしょうか。皆様方のご協力のお蔭で私も香川大学教育学部において36年間の長きにわたり、生涯学習の教育と研究に従事することができました。ここに皆様の常日頃のご支援に心より感謝申し上げます。さらに、私は宮城県出身ですので、去年の3.11の東日本大震災に際し、温かな励ましのお言葉をかけていただきましたことにも深くお礼申し上げます。

さて、私は定年退職後も相変わらず忙しく過ごしています。毎週1週間に1日だけ教育学部で非常勤講師として学生の教育に従事しています。それに、今夏は1週間ほど講習の講師も務めることになっています。

また、体のほうはヨガ体操教室で鍛え、頭のほうは古文書解読講座と菊池寛記念館文芸講座などで鍛えています。昔から「60歳からの手習い」とよくいわれていますが、65歳から受講するとやはり難しい面も多々あります。それから、時々、へんろ道を歩いたり、四国八十八か所巡りをしたりして、自然を眺めては筆を走らせ水彩画を描いております。星空のきれいな夜には天体望遠鏡で遅くまで木星やお月さんなどを眺めています。永年勤続でギフト・ブックを頂戴し、その中から申し込み、この天体望遠鏡が贈られてきたのです。

3月末日に本を段ボール箱に詰めて牟礼町の我が家に移動したら、書齋がこれまでと同じ「研究室」に替わってしまいました。香川大学からメールアドレスもいただき、24時間パソコンのキーボードを叩いて、メールの交換もでき、お陰様にて大変恵まれた研究状況にあり、いつも感謝している次第です。

最終講義のときに結びの近くで、これからすべきことが山のように連なって見えてきました、とお話いたしました。それで、このような恵まれた研究条件や生活条件を生かして、高くそびえる山々をめざして一歩一歩着実に登ってまいりたいと思います。

最後になりましたが、会員の皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

支部だより

高松支部

takamatsu

絆を深めて



総会の幕開けは、松楠会のメンバーである鬼無家ファミリーによる日本歌曲の演奏です。聴衆の琴線に触れます。朗読で展開する「幸せの王子」もまた、郷愁をそそります。母校と旧友への愛着の念がそこはかたなく一体感を醸し出します。橋本会長様が言われた「一人ひとりの心の中には卒業した学部を核として、生涯切れることのない絆が存在している。同窓会ほど強固な結び付きはない」の声かけと重なります。

折りにふれて、「松楠会は何をなすべきか」、「何ができるのか」という先達の問いかけが脳裏をよぎります。まずは、前高岡会長様からの懸案事項について取り組むことにしました。絆を深めていくために規約の見直しをすすめました。会員名簿を整理し、その成果を会費の集め方の工夫につなぎました。さまざまな想いや期待をこめて「松楠会だより」創刊号を全会員の皆様方に届けることができました。整理の途次ですが、まずは、松楠会の運営に関する基礎固めの第一歩を踏み出すことができました。こうした一連の作業の中で、本部から資料提供など多大の協力を得たことに改めて感謝の気持ちを深くしました。また、事務局一同の優れた情報処理力にも驚きの念しきりです。私たちの夢をかなえてくれたのですから。

未曾有の東日本大震災は自らの手で新しい絆を創出していく動きを感じさせます。被災地から全国に感動を与えた中学校卒業式における答辞は切々と語りかけてくれます。

「時計の針は14時16分を指したままです。でも時は確実に流れています。生かされた者として顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことがこれからの私たちの使命です。…この地で、仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。この学校の生徒でいられたことを誇りに思います。」

悲痛な叫びです。共感の涙がこみあげます。誇り高さ東北発・未来型の強い生き方モデルの発信です。「支え合って共に生きる社会」を構築していく指針です。

松楠会の会員であることに誇りを持ち、「減災」と「協働」をキーワードとする新しい地域社会の絆づくりにどうかかわっていくべきか考えてみたいものです。

徳山久美子
(教育・昭和31年卒)

坂出支部

sakaide

松楠会坂出支部の平成23年度の会員は、現職154名、OB112名の計266名です。21のOB地区と22の学校地区による構成で、事務



局を附属幼稚園に置いています。

昨年度は、平成23年5月25日(月)、附属幼稚園において役員会を行い、また7月3日(日)には坂出支部評議員会を開きました。

坂出支部総会は、9月4日(日)に坂出プラザホテルで開催いたしました。ご来賓として、本部より森美智子松楠会副会長様のご臨席をいただきました。総会においては、平成22年度事業報告・会計報告、平成23年度事業計画案・予算案審議、役員改選等が行われました。

また、総会に先立ち、教育視察として、坂出市沙弥島にある万葉会館と東山魁夷せとうち美術館に出かけました。万葉会館においては、館内に展示している地域の伝統文化の資料について、我々が支部会長の細川先生からご説明いただいたり、東山魁夷せとうち美術館においては、美しい絵や瀬戸大橋の眺めに魅入ったりと、文化薫る心豊かなひとときを過ごすことができました。

総会後は、プラザホテルで懇親会を行いました。久しぶりの再会で、近況を語り合うなどして、終始和やかなひと時をもつことができました。今後とも、支部会員の皆様や本部の皆様のご意見を賜り、充実した運営を図りたいと考えております。

佐藤 美芽
(教育・昭和58年卒・香川大学教育学部附属幼稚園)

三観支部

sankan



三観支部では2年に1度、総会ならびに記念講演会併せて懇親会を開催しています。また、物故者への弔意を表するとともに支部会報の発行もしています。さらに僅かではありますが助成金を出しグループ活動を助成しています。

今回の総会は、去る平成24年3月28日に開催しました。本部から橋本正範会長様、学内理事西田智子様をお迎えし49名の会員が参加しての総会及び講演会、懇親会となりました。会員総数900余名ですから決して多いとはいえませんが、都合のつく多くの会員が参加され、充実した会となりました。

総会では、平成22・23年度の事業報告や決算報告などの審議の後、役員改選があり、小山英夫支部長が退かれ、高橋正好氏が選任されるなど役員が代わる年となりました。

本部の橋本会長様からは、はじめに120周年記念事業の募金では三観支部から県内最高の募金額を集めていただいたことへのお礼がありました。また、喜ばしいこととしては、山神先生が学部長になられ、一生懸命改革に取り組まれたことが紹介されました。気がかりなこととしては新入会員の減少により運営経費に影響が出そうなことや国からの予算の削減により教授が2名ほど減らされたことの報告がありました。さらに、各年に実施しているホームカミングデーは、今年の11月3日に実施する予定であるとのことでした。

総会の後の講演会では、元高瀬町教育長の小野健一先生



香川 支部

kagawa

の「夕陽を愛(め)でる」と題して講演がありました。小さいころからの夕日を眺める体験が感性を育て、感性が人生を豊かにすることを御自身の感動体験とおしてユーモアたっぷりに語られ参会者に感銘を与えました。

先生は「本題に入る前にぜひ言っておきたいことがある」と言われ次のことに触れられました。福島原発は津波の被害を受け全ての電源を喪失したが、女川原発は被害を受けなかった。なぜか。福島は断崖を10mの高さまで掘り下げて建設したが、女川は14.5mでとどめた。13mの津波に一方はやられ一方は助かった。だからこれは人災である。続いて本題に入れ「人はどうして夕陽に心を動かされるのだろうか」ということを多くの体験を交えて具体的に語られました。ウズベキスタンでお仕事をなさっていたときホテルの窓から沈みゆく夕陽を滄茫の涙で眺めたこと。ちかくでは御母堂の満中陰法要を終えて夕焼け空を眺めていたとき三橋美智也の「夕焼けとんび」を無意識に口ずさんでいた。その時渥美清演じる「男はつらいよ」シリーズ全てに夕焼けの場面を入れたという山田洋二監督の言葉を思い出された。いろいろ考えてみると、夕焼けの向こうにある世があり、落日のかたに「極楽浄土」を思い浮かべ新しい「生」を受けると考えていたからではないだろうか。夕焼けの向こうに希望がわいてくるからこそ夕焼けの場面を入れたのではないか。ところがある調査によると日の出日の入りを見たことのない小中学生が43%もいたという。なら晶子の「金色の小さき鳥のかたちして銀杏ちるなり夕陽の岡に」の歌をその感動する夕景を思い浮かべて鑑賞することはできないのでないか。小さいころの体験が感性を育て感性が人生を豊かにすることを夕焼けの感動体験とおしてユーモアたっぷりに語られました。

谷 育則
(教育・昭和45年卒)



平成24年度の会員は、小中学校の現職会員86名、OB会員67名、計153名の支部で、会員相互の親睦を図り、本部と一体となって教育振興に寄与することを目的としています。

支部総会は現職会員の参加を容易にするため、毎年8月に開催します。

総会后、引き続き講演となり、母校の青山夕夏教授によるフルート演奏を中心とする講話をいただきました。

演題は「フルートを通してみる世界の文化交流」

1. 瞑想的な曲 福島和夫：冥
2. 18世紀のバロック音楽期の曲
C.P.E.バッハ：無伴奏ソナタ
3. 20世紀初頭のドビュッシーの曲：シリクス
4. 5拍子の曲 P.O.フェルー：3つの小品
5. 近代の日本的な雰囲気を持った曲
ユン・イサン：ソリ 等々

素晴らしい音楽鑑賞の会となりました。

妹尾 長
(教育・昭和34年卒)

大川 支部

okawa



平成23年度の総会は、9月4日(日)クアパーク津田で、安西一夫理事様、西田智子理事様をご来賓としてお招きし盛大に行われました。総会では、安西理事様からご挨拶をいただき、その後、平成22年度の事業報告、会計報告、平成23年度の事業計画、予算案等について協議し、最後に役員の改選を行いました。

総会の後、株式会社レアスウィート代表取締役 近藤浩二先生(元香川大学学長)から「希少糖と地域振興」という演題で講演していただきました。講演の内容は、希少糖とはどんな糖か、希少糖開発研究、希少糖の機能、今後の希少糖の利用等でした。香川県の新しい特産品として全国、全世界へ発展する可能性についてお聞きすることができました。

続いて、懇親会に移り、OB会員の方々と現職会員との交流が図られ、和やかなひと時をもつことができました。

六車 周二
(教育・昭和52年卒・東かがわ市立誉水小学校)



綾歌 支部

ayauta



綾歌支部では、平成23年度の支部総会を平成23年8月26日(金)10時から12時半まで、例年の丸亀市綾歌町の「みゆき」で、本部より山神眞一学部長・岩島卓男副会長を迎え、支部役員32名のご案内で開催されました。物故者への黙祷から始まり、総会行事を決議致しました。

この間に、「役員総会は極々限られた人員なので、今後はできるだけ大勢の方々にお集まりいただくような会の計画をして欲しい。」という熱いご要望もありました。

引き続き、講演に移りました。綾川町立綾南中学校 香西弘志校長による「今日の中学校教育の課題」という視点で、現在、中学校校長会などが取り組んでいる「2学期制の問題点」などが話題に取り上げられました。なるほど、時代も変わったもんだな、という感想を持った会員も少なからずいました。最後に、会食となり、お互いの健康を確かめる会話が続きしました。

岡内 尊重
(学芸・昭和36年卒)

紙面の都合上、すべての支部だよりを掲載できませんでした。松楠会ホームページをご覧ください。



8号館西側に並んで植栽されている松と楠

「松楠会」 名称の由来を求めて

副会長 森 美智子

昨夏の坂出支部総会で、榮岩男先生から「松楠会」名称の由来についてのご質問がありました。120周年の歴史を有する同窓会なので、全会員にしかと周知してほしいとのご要望を受け、関係書類を調べたり、当時の関係者に直接尋ねたりした結果を記述させていただきます。

「松楠会」の名称を、評議員会・総会において承認・決定したのは、昭和53年6月3日でした。

この名称決定までの経緯を調べてみますと、昭和49年10月25日発行の、香川大学教育学部同窓会報第11号で、広く会員に同窓会名称の募集をしていることがわかりました。

ですから、公募後、約4年の歳月を経てこの「松楠会」という名称に落ち着いたこととなります。

さらに調べていきますと、昭和53年に理事長を辞任された高橋茂雄先生は、辞任のあいさつ文の中で、在任中の印象深い仕事の第一は同窓会に名称をつけたことをあげられています。かなりの曲折を経ているとのことでした。

実は、昭和26年頃に、この話が持ち上がったが、保留となり、長い年月を要したいきさつがあるので、この名称を十分に徹底し、愛していきたいと付記されていました。

公募結果の状況等についての記述は、見当たらず、当年度、理事長に就任された植松辰美先生やご健在の先輩方にお尋ねするしか方法がありませんでしたが、「松楠会」の「松」は、香川女子師範（坂出）の松韻寮を取り囲むようにあった松原の「松」と、男子師範の校庭にあった「楠」を組み合わせてつけられたとのことでした。

ご存じのとおり、「松」は、常緑樹の代表木で竹や梅とともに寒さに堪え、めでたいものとして慶事に重用されています。また、「楠」は、抜群の樹勢を有し、やはり常緑の高木で、その実は樟脳として重用されています。両者に共通する品格を伴う安定感と、社会への有用感等が、同窓会の幾久しい発展を希う思いにマッチしたのではないかと想われます。

因みに、松楠会紋章は、創立100周年記念事業の一つとして、平成元年に制定されました。男子師範ゆかりの楠の葉に女子師範ゆかりの松から、松の種子を配して、美術教育の秋山智教授がデザインされています。「松楠会」のさらなるイメージアップに貢献してくれていると好評です。

◆参考資料…・90～120周年記念事業として発行した松楠会会報縮刷版1冊と合冊版3冊
(1～46号の会報・沿革史・松楠会関係年表)
・松楠会ホームページ



松楠会

平成24年度
松楠会支部
事務局

支部名	郵便番号	住 所	担当者
高 松	761-0443	高松市川島東町 864-1 高松市立川島小学校	藤澤 典子*
丸 亀	763-0051	丸亀市今津町 348 丸亀市立城坤小学校	岩井 俊明*
坂 出	762-0031	坂出市文京町 1-9-4 香川大学教育学部附属幼稚園	佐藤 美芽
大 川	769-2605	東かがわ市中筋 425 東かがわ市立誉水小学校	六車 周二
小 豆	761-4152	小豆郡土庄町黒岩 729-1	三木 吉昭
木 田	761-0702	木田郡三木町平木 710-1 三木町立平井小学校	横手 誠
香 川	761-1612	高松市塩江町安原上東 365 高松市立塩江小学校	鎌田 章司*
香 綾	769-0102	高松市国分寺町国分 14-6	岡内 尊重
仲・善	766-0004	仲多度郡琴平町榎井 576-1	平井 清三
三・観	768-0060	観音寺市観音寺町甲 1186-2 観音寺市立観音寺南小学校	三野 正*
東 京	279-0022	浦安市今川 4-12-28-1	菊池 健二
神奈川	253-0111	神奈川県高座郡寒川町一之宮 3-38-8	宇條 建郎
愛 知	470-1167	愛知県豊明市栄町西大根 99-24	古田三千年
大 阪	567-0884	大阪府茨木市新庄町 6-9	信垣 綾子
兵 庫	651-2277	兵庫県神戸市西区美賀多台 4-7-20	木岡 正雄
岡 山	709-0221	岡山県備前市吉永町金谷 647-32	横山 茂樹

*は、今年度新しく
交代された方です。

科学する心と創造力を育む

三豊市少年少女発明クラブ企画運営委員長

山路 義信
(学芸・昭和37年卒)



この度、平成23年度松楠会のご支援を賜り大変ありがたく感謝申し上げます。

私たちは、三豊市少年少女発明クラブの指導員として子供たちの活動の一部分に関わっています。

松楠会の温かいご支援で、発明クラブの教材や教具などを購入させていただきました。本当にありがとうございました。

クラブでは、子供たちの自由な発想力を引き出して科学技術に対する夢や情熱を育むため、毎月第1第3土曜日の午前9～11時に香川高専詫間キャンパスにて活動を行っています。

平成23年度の活動内容は、発明の日イベント、簡単ロボット教室、工場見学、チャレンジコンテスト作品作り、発明くふう展作品づくり、楽しいアイデア工作、未来の科学絵画教室、チャレンジコンテスト地区大会、おもしろ科学実験教室、平賀源内展作品づくり、昔のおもちゃづくり、手作りロボット教室などでした。

参加している子供たちは、小学1年生から6年生で、120名程度、夏休み中には中学生も希望者が参加しています。

子供たちは毎回、目を輝かせて熱心に取り組んでいます。多少の困難や分からない事があっても、大人たちのサポートを借りるよりも、子供独自のアイデアとお互いの助け合いによって、ねばり強く作品を仕上げています。

その結果、平成23年に子供たちの作った作品は、香川の発明くふう展で5点入選し、全日本発明くふう展に出展されました。平賀源内展でも4点入選、チャレンジコンテストでは、四国地区代表として全国大会に出場、未来の科学絵画展では全国大会優秀賞1点と素晴らしい成績でした。

これからも、子供たちの限りなく広がる科学する心や創造力を、温かく見守り、育てていく努力を重ねてゆきたいと思えます。

平成23年度松楠会支援事業

- 楽しい学びの広場 (代表 朝倉 芳明)
- 算数・数学ゲームで身につく「数学的な考え方」 (代表 安西 一夫)
- 三豊市少年少女発明クラブ (代表 山路 義信)

平成23年度学生支援事業

- わくわくコンサート
- 未来からの留学生

● ● ● 平成25年度松楠会支援事業の募集 ● ● ●

高校生以下の生徒・児童を対象にした青少年の健全育成事業、教育活動事業などに対する松楠会支援事業を下記の要領で募集します。

- 1 | 支援する事業は、松楠会の会員が企画・実施の中心になっているもので、1事業につきおおそ30万円を上限とする。
- 2 | 提出書類 … (1)企画書 (2)予算見積書 (3)その他参考資料等
- 3 | 応募締め切り … 平成25年1月31日
- 4 | 提出先 〒760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部同窓会 松楠会事務局
及び … TEL: 087-832-1414
問い合わせ先 メールアドレス: syounan@ed.kagawa-u.ac.jp

なお、同一事業の採択は、4回目までとします。選考結果については2～3月中に通知します。



知命のとき

—教職志願者を導くミッション(使命)をいただいて—

教育学部准教授 山下 真弓



激変する社会との関わりの中で、大学教育の質的転換が大きく求められ、本学部も教員養成の質向上改革の方向性を明確にしようと取り組んでいます。私は大学と県との人事交流により現場から来た教員として、学生たちの可能性に着目した資質向上にはどのようにあるべきか、日々、自らに問いかけています。どのような授業が、教職の実情や醍醐味を伝えられるのか。同じ授業に臨むのであっても、毎回、つくり直しています。次週の授業に向かうときも、学生のようなすやコメントから、時間の許す限り、教材研究を重ねています。そのため、最新情報が必要で、現場の学校園や先生方に助けていただいております、感謝とともに人的ネットワークの大切さを痛感しています。

私は、教育の場はできる限り一人一人に向き合いたいと思っています。とりわけ、「対話」はキーワードです。マイケル・サンデル教授のようにはいきませんが、415教室のような大教室であっても、学生にマイクを回します。対話は、思考を深め、信頼関係を促します。何より、学生は、よく聴き、さらに訊くようになります。また、180名を越える多人数であっても、毎度必ず、学生のコメントに返事を返すように努めています。すると、授業外でもよく挨拶をし、よく語りかけてきます。卒業式に、松楠会の事務手続きの仕事をしていたとき、多くの学生が心を開き今後のことを語ってくれたことは、たいへん嬉しかったです。

2千5百年前にさかのぼるのですが、私は『論語』にある孔子のような、謙虚だけれども、明朗闊達な指導者であって、学生たちと共に語り合いながら追究する生き方に憧れています。学生たちには、「憤せずんば啓せず。悱せずんば発せず。一隅を挙げて三隅を以て反らざれば則ち復たせざる也。(述而第七)」という姿勢を導きたいです。将来、自らが探究心おう盛な人間であることに喜びが感じられるようになればと願っています。

さて、本学部は、学生に「教師に求められる資質能力」として、「教職の使命」「対人能力」「子ども理解」「指導力」「探究心」の5つの力を付けさせたいと示しています。この集大成として、卒業前に質保証をねらった「教職実践演習」の授業づくりプロジェクトが、昨年度から、来年度に向け立ち上がり、私もその実践推進に携わっています。他の教員とのワーキングを繰り返す中で、個々の授業や学生たちの指導の在り方を見直し、新しく確かな教員養成の在り方を探る牽引力となっていくことと期待しています。



若者の力は、ほんとうに無限です。今年も「きょうから音読名人！」という学生ボランティア事業をしたいと告げに来た者たちがいます。やる気満々の姿に感動です。本務以外のことですが、応援したいと思います。

これからも、私は教員である前に、先に生きる先輩としてどのようにあるべきか、自分に問いつつ、精進して参る所存です。

松楠会ホームページ

松楠会

検索

<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~syounankai/>

編集後記 ■ ■ ■

- 原稿をお寄せいただいた皆様のおかげで、今年も会報を発行できることに大変感謝しております。
- 会報の様式を昨年大幅に変更し、オールカラーになり、明るく見やすい紙面になったというお声をかけていただきました。ありがとうございます。編集作業中にも、これまでより多くの意見が出て、楽しく取り組むことができました。これを機会に、限られた紙面ですが、一層充実させて、会員の皆様と同窓会を結ぶ会報となるよう努めていきたいと思っています。

松楠会報

第49号

発行日 平成24年7月20日

発行人 橋本 正範

佐藤 明宏

編集 大浦みゆき

高橋 智香

稗田 美嘉

塩井 実香

香川大学教育学部同窓会 松楠会